

【様式①】令和3年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立岐阜小学校

校長名 藤田 忠久

市の重点項目	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
全職員や地域コミュニティとの協働による積極的な指導体制を確立し、「チームとしての学校」を実現する	・全教職員が学校長の経営方針「ふじたvision」に基づき、共通認識のもとで指導に当たる。 ・「いじめアンケート」等をもとに、決していじめを見逃さない。また、日常的な教育活動を通じた「いじめ防止」や「いじめ対応」への取組を充実させる。	A	・「実践しながら常に最適を目指して新たな実践を繰り返していく」という姿勢で、創意工夫しながら職員一人一人が指導に当たることができた。 ・いじめ対応をはじめ、仲間づくりに力を入れた学級経営や児童会活動の充実を図ることができた。 ・いじめを見逃さない日の取組も充実させることができた。	・先生方が一生懸命授業に取り組んで、子ども達に教えていく姿に感動した。 ・子ども達が落ち着いて学んでいる様子がよく分かった。すれ違う時にしっかりと挨拶もできて素晴らしいと思った。 ・心配なことがあると何でも話せる環境が作られていることが素晴らしいと思う。	・「自分大好き」「仲間大好き」「ふるさと大好き」を合い言葉に、今後も継続して指導に当たる。 ・いじめアンケートやSTARの結果を指導に生かすとともに、児童の表情や言動の些細な変化も見逃さない。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程を編成・実施・評価し、教育効果の最大化を図る	・生活科、社会科、総合的な学習の時間を中心とした「ふるさと教育」をはじめ、新学習指導要領の趣旨に立った授業づくりに励み、「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」を推進する。	A	・生活科、総合的な学習の時間の年間カリキュラム(教科等のつながり、学年間のつながりを明確にしたもの)を整理することができた。 ・社会事象を自分のこととして考え、自分の考えを明確にし、仲間と対話していく中でさらに考えを深めていくことができた。	・「まちたんけん」が「もの・こと」だけでなく、「ひと」にもスポットが当たっていて素晴らしいと思った。 ・どの児童も積極的に授業に参加している様子が見られた。発言する声も大きく、楽しく主体的に授業に臨んでいることがよく分かった。	・「ふるさと大好き」な児童を育てていくために、ぎふまちの「ひと・もの・こと」をバランスよく段階的に学んでいくことができるよう、年間カリキュラムを随時見直していきたい。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、ソーシャルキャピタルを活用した学校づくりを推進する	・幼保小で育てるべき資質を明確にして、互いに連携して同一歩調で取り組む。 ・ふるさとへの誇りを育てるために、小中が連携して互いに関わり合いながら取り組む。	B	・特に新入学児童の引き継ぎを綿密に行うことで、指導を線として繋げることを意識することができた。 ・コロナ禍において挨拶運動などの活動はできなかったが、「ふれあいフェスタ」では中学生が小学生のためにクイズやポスターを作成することができた。	・「ふれあいフェスタ」では、中学生にも参加してもらった。ベッパ一操作、市長対応、問題づくり、イラスト等、やはり先輩は心強いなあとかんじた。 ・今後の展開として、幼少、小中の連携のコミュスクの取組が検討できればと思う。	・コロナ禍において、幼小の連携をどのように行っていくことができるかを考えていきたい。 ・「ふれあいフェスタ」に中学生の参加を依頼することなど、小中が連携して子ども達を育てていきたい。
教育環境と学校財務環境を整備・管理し、有効に運用する	・定期的な点検をとおして、修繕を依頼するなどの環境整備を行い、児童の安全・安心を確保する。 ・コミュニティ・スクールの取組によって、人的・物的環境を整え、有効に活用する。 ・情報を活用して伝えたい内容を整理し、ICT機器等を駆使して発信できる児童を育てる。	A	・毎月の点検を確実にし、学校内外の安全確保に努めることができた。 ・コミュニティスクール主催の「ふれあいフェスタ」や「ふるさとスクール」では子ども達が楽しみ、「ふるさと大好き」になることができる活動を企画・運営していただいた。 ・iPadを用いて、情報収集ができていた。また、情報を整理して自分の考えを発信することもできた。	・防球ネットの張り直しなど、修繕が必要な箇所が出てきている。 ・「ふれあいフェスタ」「ふるさとスクール」では多くの方々スタッフが参加していただけた。久しぶりに子ども達と接することができてうれしかったという感想が非常に多かった。 ・「まちたんけん」など、子ども達がiPadを使いこなしている姿に感心した。	・児童の安全を守るために、毎月の点検を確実にし、 ・コロナ禍であっても、知恵を絞ってできることを考えていく。 ・コミュニティ・ティーチャーを有効に活用し、「ふるさと大好き」な児童を育成する。
災害や事故等、多種多様な非常事態に対する安全性の確保をする	・計画的かつ実態に即した命を守る訓練の実施や交通事故、不審者などについて随時指導をする。 ・コミュニティ・スクール委員やPTA役員と共に、視点を定めた通学路の点検などを行う。	A	・命を守る訓練を様々なパターンで行うことで、一人一人が状況や場面に応じた避難の仕方考えることができた。 ・児童の安全を第一に考えた通学路点検を行うことができた。通学路の変更も検討することができた。	・通学路点検の結果、子ども達の安全を考えて、通学路の変更を行った。子ども達には登下校コースをしっかりと確認してほしい。 ・子ども110番の家をもう少し増設していけるように働きかけていきたい。	・保護者や地域の方にも意見を聞いて、通学路の点検を行い、児童の安全を確保する。 ・命を守る訓練をはじめ、様々な場面で防災や減災についての意識を高めることができるように指導していく。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/gifu-e/>